

東亞醫學

長田學長題字

第十二號要目

投稿規定

讀者各位の投稿を歓迎す。
題目、内容は時事、學術、文藝其他隨意。
長さは一〇〇〇字以下とす。

○新體制と東亞醫學の建設
○漢方の概念と現代的使命……

矢數 道明

- 瀧邊患者の治驗……………倉島 宗二
- 修琴堂治驗(二)……………大塚 敬節
- 麻黃湯の症と鍼治驗……………井上 惠理
- 渡瀨報告……………工藤 訓正
- 日本醫學新報の社説を検討し滿洲國及中國の漢醫問題に及ぶ……………矢數 道明
- 會報・雜誌……………
- 編輯後記……………

新體制と東亞醫學の建設

(一)

東亞醫學協會が結成せられ、機關誌「東亞醫學」の發刊もすでに十九回を重ねた。その間、國內における社會狀勢の變化は實に目まぐるしきものがあつた。

阿部内閣の後をうけて米内々閣も無爲無策の非難を受け、今後の世界的變革の嵐に對處する能力を疑問視せられて退陣のやむなきに至り、近衛内閣がこれに代つた。近衛首相は大命降下を拜する以前にすでに昭和維新の旗印の下に、從來の社會機構その他の大變革を企圖し、いはゆる國民新體制なるもの、再編制に乗り出してゐた。したがつて今回の近衛内閣の使命はその國家的使命に於て相當の大事業たることは疑ふ餘地はない。

所謂新體制なるもの、本體は未だその詳細を知るによしもない。がすでに政黨は悉く自ら解消してこゝに政黨政治の終止符をうち、その他諸般の方面に於ても劃期的變革が現在行はれ、また行はれんとしてゐる。國民はいまや私情を捨て、この大事業に協力邁進することを覺悟する必要がある。

(二)

日本醫師會といへどもこの圏外に超然たり得るものではない。昨年醫藥制度改善問題に際しては、厚生省當局と正面衝突し、全國的な一大反對運動を激化することによつて、幹事案の議會上程すら阻止したのであつたが、時勢は移つたか、去る七月廿九日には全國醫師會の名の下に新體制運動に全幅的に協力すべきことを決議してゐる。

古き殻を破り、新しい形を築かねばならぬことに對しては、社會的無知者といふ別稱があるほどの醫師團でさへ斯くの如き決心をさせたのである。しかし憾むらくは果して現在の醫師會員諸君が、ほんとうに今度の新體制運動を認識して企てた行動であるかどうか疑問なきを得ない。もしも數ヶ月後に於て、新體制は醫療國營或は公營を要求するといふ場合に立ち到つたとき、一言の文句も云はずにこれに協力するだけの覺悟を果して用意してゐたらうか。決議文の手前、その時になつてそれはイヤだなど、いつたら、飛んだワラヒ物になるだらうことを注意して置く。

(三)

かゝる政治的問題は別として、凡てのものが衣更へさせられる現時に於て、舊態依然として西洋の直

譯醫學を最高峰と盲信し、こゝに日本的な醫學の存在をすら知らない、或は強て知らうとしない人達の多いことは寧ろ奇異なことである。

醫療界の新體制はなにも個人的開業醫制度の變革ばかりの問題ではない。制度問題よりも醫學及治療内容の新體制をこそ焦眉の急であらねばならぬとわれ／＼は考へる。すでに移植吸収したところの西洋文化は、凡ゆる方面に於てそれを日本文化的に變革發展せしむべく努力せられてゐる。ひとり醫學界ばかりがこの嵐から免れ得やう筈がないではないか！

日本は昔の地圖の日本ではなくて東亞それ自體である。日本文化とは東亞文化の別稱でなければならぬ。現代醫學は彼等が自讃するごとくすでに直譯的醫學から日本化された醫學になつてゐるかも知れない。しかし乍らそれは單なる西洋醫學の完全なる吸消化の姿でこそあれ、眞の意味に於ける日本醫學の價値内容を保持するものであり得ない。今や日本醫學は東亞醫學へと、更に一段の醫學的飛躍を要求せられてゐるのである。

しかししてこの飛躍には、先づ漢方醫學の研究を措いて外に道がないことを斷言する。直譯的現代醫學もかくして始めてほんとうに日本化された、新體制にふさはしい東亞醫學へと發足することが出来るのだ。全國數萬の醫師諸君よ！ チェンバレン首相ではないが、時局のパスに乗り遅れ給ふな。

漢方の概念と現代的使命

矢数道明

(本稿は九月一日金鶏學院に於ける講演要旨を略記せるものである)

一、緒言

一、緒言
二、東西兩醫學の性格を比較す
三、對證療法と對症療法との相異
四、漢方醫學は果して非科學的か
五、西洋醫學の轉廻
六、世界の新體制

與へられた題目が、漢方の概念と現代的使命といふ、随分大きな題であります。そこで始めの方の漢方の概念を知るには、一應これを西洋醫學の概念と比較對照してみると、判然としてくるのであります。然し西洋兩醫學の特殊性格を對比せしめて、漢方醫學の性格が何故現代的に意義があるか、時代の使命を持つてゐるか云ふことに就てお話しを進めて行きたいと思ふのであります。

此處で西洋醫學と申しますのは西洋の近代醫學の中でルネサンス以後十九世紀に至つて、ウィルヒョウやパスツールによつて全盛を極めた、所謂分析醫學と呼ばれてゐるものを、殆んど直譯的に我國に移入し、僅かに數十年にして世界の標準にまで築き上げた現代醫學を指して云ふので、漢方醫學と申しますのは幾多の變遷中、古代東洋醫學の結晶である素問や傷寒論の中の純粹な學と術が、臨牀醫術として日本の特有の發展を遂げ、今日に傳へられてゐる醫學體系を指して謂ふのであります。

二、東西兩醫學の性格

さて漢洋兩醫學の特殊傾向、即ち性格を鳥瞰的に、次の様に對照して見たのであります。

漢方の性格	西洋醫學の性格
総合的	分析的
内科的	外科的
臨牀的	基礎的
對證的	對症的
機能的	機械的
素朴的	精密的
實際的	理論的
哲學的	科學的
根本的	末梢的
體質豫防的	細菌豫防的
自然的	人工的
人體實驗的	動物試驗管實驗

形而上学的 形而下的
その他挙げれば種々のことが擧げられるのであります。總して申しますと、漢方醫學は極めて総合的、全體的傾向が強く、それに引き換へて西洋醫學は非常に分析的、個別的傾向が濃厚なのであります。その根本性格の下にいろいろの方面に、所謂方法的論的に申しますと、多方面にその特性が展開されてくるのであります。

三、對證療法と對症療法

四番目に漢方は對證的であり、西洋は對症的であると、斯う書いて置きました。一寸見るとよく似てゐる相異がない様に思はれますが、この證と症の違いが大きな問題なのであります。症といふのは症狀の症で、頭痛とかは疼痛とかいふ個々の症狀を指して云ふので、分析的個別的症候なのであります。漢方の證と云ふことはその個々の症狀が、ある個人の疾病に際して、一つの統一した、相關聯したところの症候群となつて現はれてくる。その症候の総合的なものを指して證と云ふのであります。即ち頭痛と嘔吐と下痢とが一つの關聯を持ち、その一つ一つの症狀は疾病の一環として意義を有しその綜合した全體が、ある定められた證となるのであります。實例を以て申上げて見ませう。これは嘗て雜誌にも發表したものであります。先頃私はある中年の婦人の尿毒症患者を治療して、もう殆んど手の施し様がないといふのが非常によくなつた例がであります。(結局は有終美を收め得なかつたが)この婦人は私の診ました時二ヶ月程前から兩方の目が見えなくなり、血脈は二百六十もあり猛烈な頭痛で夜も殆んど眠れない。何を飲んでも食へず吐いて終つて茶も納まらない、口が渴いても番茶さへ飲めない、尿に非常な蛋白質が出るので嚴重に鹽を禁じてゐる

といふのです。この患者を漢方的に診察しますときは先づ第一の尿毒症といふ病名の診斷を忘れて置くべきで、この病名の綜合的證候を診斷するので、先づ脈、腹、舌、證と云ふ四つの點をよく觀察するのであります。この婦人の脈は浮んで大きく、腹は丁度十日程は殆んど物が納まらない、吐くのが辛いといつて食へないので、お腹は力がなくブクブクで、それで胃内停水が著明に認められる。膈の周圍などに壓痛がある。舌は白苔が、かつて相當乾燥してゐる。證候としては前に述べた様に頭痛と嘔吐と不眠とそれに小水の不利、兩眼失明、自汗などがあります。この脈と腹と舌と諸症候群とを綜合的に觀察しますと、漢方の診斷技術では之を五苓散證といふ病名を付けるのであります。即ちこの病氣は尿毒症でもなく、高血壓でもなく、現在は五苓散といふ藥方が治すところの病氣であるといふ、病名診斷でなく病證診斷をするのであります。この病證診斷が決まると直ぐに五苓散(茯苓、白朮、猪苓、澤瀉、桂枝の五つ)の藥より成つてゐる)といふ治療法が出てくる。これが漢方醫學の優れた特殊性格で診斷即治療といふ高等なる醫學の第一條件なのであります。勿論尿毒症といふ西洋醫學的病名も知つてゐて、差支ないから、血脈も尿中蛋白質も、病名も決して第一義的のものではない。第二第三義的のものなのであります。さてこの患者は五苓散によつて小便が快通し、嘔氣は直ぐ止まつた。食慾は増進し、頭痛が止まつたのでよく眠れる。そしてだんだん兩眼が見えて來たのであります。これは漢方流に解釋しますと腎臟障毒の故に以上のような諸症を呈し

てゐた。即ち水毒が胃に停つて胃内停水が上逆して嘔吐を起し、何も納まらないのである。又毒性を帯びたものが上へへくと昇つて腦神經を刺戟して、毒素のために猛烈な頭痛を起し、不眠症となつてゐる。この毒素を排泄せんがため腎臟が働いて益々疲勞し、小便が少く代價的に血脈が高くなつてゐる。その補正工作として汗がジメジメと出てゐる。斯う見て來ますと、以上の諸症候にはお互に相統一した相關係があるのがお判りであらうと思はれます。この時この病人は五苓散といふ漢方醫學で決定された藥方によつてのみ治療の病證を表現してゐたといふことになるのであります。そこで五苓散を服用すると小便が快通し、小便が去れば吐く必要がないので食水が納まる。水毒が上逆せなくなつたから頭痛が治つた様によくなつた。従つてよく眠れる様になる汗も出る必要がなくなり、血脈は自然と下つて來る。これが漢方の對證療法である綜合的治療法であります。それまで西洋的に治療して居られた方は、血脈を下げるといつてはその注射をし、頭痛が烈しいといつては鎮靜劑を投じ、嘔氣を止めるといつては鎮嘔劑を盛り、小便が出ないといつて利尿の注射をし、榮養が衰へて來たらといつては葡萄糖の注射をしてゐたらさうであります。即ち血脈、頭痛、嘔吐、小便不利といふ個々別々の症狀に向つてのみ治療の對象を考へるので、どうしても末梢的に陥り易いのであります。現に單なる利尿劑をやつても益々工合が悪い。鎮嘔劑も奏效せぬ、水毒といふ根本を忘れてゐるからであります。この病人のこの時には漢方の五苓散といふ藥が治すところの證を備へてゐたので、他の藥方やその他の藥では代用出來ないのであります。以上で對證療法と對症療法の

四、漢方醫學は果して非科學的か

私は先頃滿洲國民生部から招かれて新東京に赴き、同國の漢方醫學及漢醫の行政的處置に關し相談を受けたのであります。今迄内地の人があちらへの視察調査をされてその殆んど十中十までは、視察と舊態依然たる滿洲國の漢醫の診察治療を見て、これは野蠻醫學であり、非科學的であるといふて日本と同じ様に法律的に禁止する様にといふ意見が大部分であつたといふことでもあります。そこで民生部が漢方醫學とは如何なるものか、果して存続せしめる價值があるかどうかといふことに就て、こちらへも相談があり、京城醫大の杉原教授や、滿洲醫大の岡西博士内地からは龍野氏と私と二人で参りまして各方面から説明申上げて來ました。その結果漢醫は存続する。それはかりでなく漢醫の素質を向上させその優れた東洋醫學を益々發展せしめ、指導者を作るたがに國立漢方醫學研究所を設立しやうといふことになつたのであります。滿洲國の漢醫の素質は確かに低い様です、醫學としても日本の發展を遂げたものとは大分違つてゐますが、指導精神といふものは儼然としてゐる。それ故漢醫の素質は向上せしむべく漢方醫學は益々研究し發展せしむべしといふことを納められた民生部の處置は新しい東洋醫學の發祥を明示してゐるものと思はれ驚喜に堪えないところであります。そこで今迄多くの視察者によつていはれた様に果して漢方醫學は野蠻醫學であるか、非科學的であるかと云ふことを新しい眼から見直す必要があるのであります。

相異點をお話したことゝいたしました。 (一一)

それは我々が漢方は科学的である。優れた文明醫學としての内容を持つてゐるといふも手前味噌を列べてゐるといふは勝ちでありませぬが、泰西の先覺者といはれる人の説を借りて申上げ、世界の新しい醫學者は漢方醫學を如何に見てゐるかといふことを調べて見る必要があると思ふのであります

五、西洋醫學の急轉迴

御承知の方が多しと思ひますがその意味で私はこゝに佛蘭西のアラン・ド・ラ・メー博士の「西洋醫學の急轉迴」といふ分析醫學革命論ともいふべき著述をもう一つ、ロツクマン・エライ研究所から一切の西洋的在來文化を否定し新しい世界觀の確立を叫んだ、カレル博士の「人間」といふ本と、この二つの著述を材料として取上げてみたいと思ふのであります

此の二著とも澤澤氏の譯本でありまして、前者は既に十年前に、後者は一昨年邦文譯として出版されました

こゝで前者の西洋醫學の新傾向の目的を聞いて見ますと次の様になつて居ります

- 一、西洋醫學の二傾向
- 二、分析醫學の岐路
- 三、素質體質の意義
- 四、綜合醫學の復活
- 五、分析醫學の最後

この見出しだけ見てもその内容が分析的西洋醫學が綜合的東洋醫學へと轉迴を見させてゐる事が判明する事と思はれるのであります

第一章の西洋醫學の二傾向では疾病を外部的、過發的原因によつて起ると見るガリヤンやバスターの分析醫學と病原を内部的環境的に見るヒポクラテスやインドや支那醫學の如き綜合醫學の差異を論じ、第二章ではこの分析醫學は明かに岐路に立つてゐることを該

博なる材料を科學的に整理してその論據を打ち立てゝゐる。アラン・ド・ラ・メー氏は現代の分析醫學が三大完成療であるとして論じてゐる。その一つは、天然痘に對する種痘法、梅毒に對するサルバルサン、チフテリアに對する血清療法に對して鋭い批判を試み、全く新しい問題を提出してゐる。然して綜合的醫學が復活して分析醫學の最後の幕を開くといふてゐるのであります

カレル博士の人間は、從來の物質文明は人間を勘定に入れない文明で、その文明が發達すればする程、反對に人間は不幸になるといふ新しい主張で、彼は一切の西洋的なる文明より最初に掲げた一切の東洋的文明が内容を捉へて持つてゐる新世界觀の樹立を提唱してゐる新であり、その詳細はこゝに申上ぐる時間がありませんが、この二著者共世界の先覺者として認められてゐる人々であつて、而も折々の様に西洋的醫學は大轉迴を必要とする時機に到達してゐることを叫んでゐるのであります。即ち漢方醫學はこゝに新しい時代の意識を以て登場して來たのであります

では一切の西洋的なるものが全否定されて姿を消して終ふかと云ふと、さうは行かないと思はれるのであります。又漢方醫學が昔の姿そのまゝで復興するかと云ふとこれもさうは行かないのであります

ではどうなるかと云ふと、一切の西洋的なるものが一切の東洋的なるものの中に抱擁され吞み込まれて東洋的なるものが胃袋となつて西洋的なるものを消化し吸収して、こゝに始めて新しい東洋文明東洋醫學が生れ、それが即ち世界文明世界醫學となるといふ譯であります

こゝに分析と綜合とが必要なのでこの分化性と統一性とが一つの生命體として活動するところに文明の發展がある。分析をすればするほど

人間から遠ざかる、然し分析したものが有機的に生きざればよい、たゞ分析を寄せ集めただけではいけません。そこに統一性ある生命が必要である。この點で面白い實例があります。ある人が優れた人物畫の畫伯を數人集めて、各の得意とするところ、即ち目を畫く事の名人には眼を、すばらしい鼻の美を表現することを得意とする人に鼻を、耳を口元をそれ、大に鼻を圍つて畫いて貰つて、それを機械的に顔形が出来上ると思つたが案に相異して、怪物の様な顔が出来たと云ふことでもあります。現在の専門科に分れた綜合病院は恰もこの例によく似てゐる。いかにその一つこゝに精密で美しい様であるがそこを綜合した統一性、人格的生命がないといふ弊があるのであります

分析的醫學に生命を與へるものが漢方的理念であり、すべてのものを生かすところの日本精神であると思ふのであります

世界を擧げて今や新體制に邁進しつつありますが云ふところの新體制とは何かといふとあらゆる方面に最初に掲げた一切の西洋的性質から漢方的性質への轉迴であり生命ある分化の人格の統一であり、漢方的性質が西洋的性質を包攝消化することであるのであります。此處に漢方醫學の近代的使命があると私は信ずるのであります

一羸瘦患者の治驗

倉島 宗 二

二十四歳の婦人、二十三歳の春結婚して夫君の任地北海道へゆく間もなく脚氣を患ひ、醫藥を受けると共に、麥飯及び小豆を喰へた。急激な食事の變化から消化不良を起し、激しい下痢を一ヶ月程續けた。次いで頑固な便秘と時折りの下痢とに悩まされる様になり、體は引續き羸瘦して行つた。順調にあつた月經も止まり、強い疲労感と食慾不振の爲衰弱は益々加はり主治醫は恢復の見えない旨を告げた。

本人の希望により夫君はその妻を携へて信州の郷里へ進歸つた。長途の旅行により體は一層弱つた。勿論恢復の希望があつて歸郷したのでなく、故山に死なむの妻の願ひを拒み得なかつたものだから昭和十四年九月十一日、日赤支那病院の診を受けての歸途最後の手段として娘を病人を兩親が支へる様にして來院する。農學校教諭の父親は「もう施す術がないのでうです」と云ふ。最近殆んど全く食慾が無く葡萄酒の注射と卵黄一二個、果汁若干が一日の攝取量なりと。

極度に瘦せてゐる。ひとりでは起座も自由でない。精査するに稀に見る重篤な神經性消化不良である。

隨分苦心をした。外中耳炎も經過したが體力は左記の如く驚くべきスピードを以て増進していつた。十四年九月 七貫六百匁(身長五尺二分) これはプロカ氏によると大略

152cm - 100 = 52kg (7600kcal/day)

となつて殆んど五十%に近い差を示してゐる

同年十月二十二日 七貫八百匁
同年十一月二十六日 九貫六十匁
同年十二月二十六日 十貫百匁
十五年三月二日 十二貫五百八十匁

同三月二十六日 十三貫四百匁

因に發病以前の體重は常に十三貫前後を上下してゐた。此の患者は治療期間中、中耳炎の際耳鼻喉科の施療を乞ふた以外何等の醫藥を用ひなかつた。當時尚ほ月經の無いので、精神異状を少しく認められたので、私は心に懸つてゐた。その後五ヶ月を経て八月下旬、本患者の母親が來て若干年にも二回月經を見、精神異状も癒えたと傳へて呉れたのを聞いて私は快哉を叫んだ。

この例は極めて顯著な效果を示したものであるが、これに類似する神經性消化不良の治驗は尠くない。毎月幾十人の患者を診ても確信を以てこれぞ鍼灸により治癒せるものなり、と擧げ得るものはさう多くあるものではない。偶々難治の症に快治を得れば、多くの鍼灸家は直ちに當該疾病に對し、鍼灸治は偉効ありとして偶中を疑つて見やうともしない傾向があるが、それは充分戒心すべき點である。

同種疾病のあらゆる場合に對し常に效果あるを見る事實を確信した時にのみ、吾々は始めてその疾病に鍼灸の效果あるを揚言し得るのである。鍼灸は或る疾病に對しては却つて増悪せしめる場合もある。それは勿論施療技術と施療時機とも密接な關聯を以て考察せらるべき問題である。

然し補助療法として、自然治癒力を強盛ならしめるといふ點に意義があるならば、鍼灸は發病に効果あると云ふも穴勝膝張した言ではない。何故ならば幾多の實例は疑ひもなく總ての疾病に對し、常に、明瞭に自然治癒力の強盛を示現してくれる。そして數多の疾病に於て、醫家は單に自然治癒力をホンの僅か強盛ならしめるのみで、よくその疾病に長経過を與へ得るものであるといふことを知つてゐる。

此處に示した羸瘦患者の治驗も亦自然治癒力の強盛による恢復を示す一例である。かゝる見地に於て、すべての臨牀家が凡百の疾病に對し、鍼灸を併用するときは、多くの好結果を期待出来るものであると信ずる。

漢方醫學大觀

△定價 一圓五十錢
△送料 十錢

日本漢方醫學會

東京市京橋區橫町二ノ五
不ニビル内
振替東京六六七七番

じがどうしても去らず、肩が凝り
 嘔吐がある。そこで生薑瀉心湯に
 變方する。これを五日分飲むと、嘔
 吐は去つたが、爾餘の症状は依然
 としてよくならない。目下の苦痛
 は胸から咽喉に何物かが詰つてゐ
 るといふ感じである。さて、これ
 は所謂梅核氣といふものかと考へ
 半夏厚朴湯合梔子甘草湯を與へ
 る。これを五日分服用して、患者
 來り、殆んど全快した様だといふ
 こと。

【按】此患者は今から考へるに
 梔子甘草湯の證であつたものか
 と思ふ。半夏厚朴湯を合方したの
 は、蛇足であつたかも知れない。此
 の患者の胸が塞るのや、心下の疼
 痛は、梔子甘草湯證の「胸中塞るも
 の」であり、「心中結痛」するもの
 であつて、腹證から考へても正し
 と思ふ。梔子甘草湯でよかつたもの
 と考へる。

後世方にも非常によく、效く藥
 方が澤山あるが、後世方を使ひ慣
 れると、どうも頭が粗雑になる様
 な氣がある。又合方の場合も同じ
 ことが云へる思ふ。

麻黃湯の症と鍼治療

井上 惠理

鍼灸術營業として昨年漢方醫學
 の講習を受けた當時から、傷寒論
 に明記されて居る症に對して鍼灸
 治療を施す事が出来ればと、一
 意専心研究を續けて居りますが、
 如何せん淺學非才の悲しき見るべ
 きものなきを託つものであります
 今回大塚先生よりの懇請に依つて
 最近の治療を述べる事に致しまし
 た。

元より表題の症と申上げてても或
 は間違つて居るかも知れません。
 或は麻黃加朮湯、大青龍湯、越婢
 加朮湯等の症であるかも知れませ
 んが、諸先生及諸先輩の御教示を
 戴けば幸と存じます。

一、症狀 年三十二歳の婦人、
 子供二人あり、一ヶ月前風邪が元
 で發熱(三十八度乃至四十度)惡寒
 及惡風、頭痛、殊に四肢關節疼痛
 甚だしく指節にまで及ぶ、醫師の
 診察は急性關節ロイマチスで、注
 射療法及服藥せしめ發汗せず、小
 便不利もあり、脈は浮にして緊、
 三部九候に依れば總ての陽脈の實
 なり。

二、治療方針、病の表在にあつ
 てしかも實する時は陽經を瀉すと
 又全部の陽脈の實する場合は、全
 陽經を瀉すことと教へられた事を
 思ひ出し、陽實症には邪穴を用ふ
 の理に従ふ事とした。

三、治療 手の溫溜(陽明大腸
 經)、養老(太陽小腸經)、會宗(小
 腸三焦經)、足の梁丘(陽明胃經)、
 外丘(小腸膽經)、金門(太陽膀胱
 經)、以上六穴を、呼吸と經の流
 注の補瀉法に従つて、即刺即抜の
 瀉法を行ひ、讓部に散鍼して第一
 回を終る。

四、経過 第二日に發熱、疼
 痛共非常に良く利尿も良くなる、
 同じ方法を行ふ、かくして八日目
 までに床に起き上られ、三週間の
 連續治療にて全快せり。

過去に於ける私の治療は症を明
 らかにする事も出来ず、尙其の方
 針に至つても何の一定の事がなか
 かつた爲、或る時は好成績をあけ
 る時は失敗する(同じ病氣でも)
 等をくり返し自分乍ら不愉快な治
 療を續けて來ました。然るに漢方

醫學講座に於いて受けたる、知識
 と柳谷先生の御指導に依つて、曲
 りなりに鍼灸術本來の道を明ら

渡滿報告

工藤 訓正

興亞學生勤勞報國隊として、去
 る七月十三日大連に上陸、八月十
 五日再び大連を出帆するまで約一
 ヲ月間、大陸に於て治療並びに衛
 生方面を擔當、滿洲建設に協力す
 ると共に、滿洲に對する認識の深
 化に努力して參りました。吾々が
 内地に居た時の認識の淺薄であつ
 たことや、今少し滿洲に對し深い
 關心を持たなければならぬと云
 ふ様な點に就いて、痛切に反省さ
 せられました。

私は隊員四名と共に約二週間、
 交通の極めて不便な、そして住民
 は殆ど蒙古人のみで、僕に旗公署
 に二十數名の日系官吏が勤務して
 ゐる地方に入つて、蒙古人と起居
 を共にしました、其の外或は旗公
 署の參事官と、或は又小學校に日
 系の先生を訪ね、薄暗いランプの
 下で建國當初の苦心、大陸經營の
 容易ならざること、特に僻遠な地
 に在つて建設事業に盡力する人々
 の覺悟等に就いて、時のたつたのを
 忘れて熱心に語るのを聞いてゐる
 中に、云ひ知れぬ感激に打たれた
 事も云れる事の出来ない思ひ出の
 一つです。

二週間後再び町に歸り五日ばか
 り其處で生活しました。私は餘暇
 を利用、町に奉天省遼源縣漢醫組
 合會長饒氏を訪問して、筆談或は
 通譯を通じて種々意見の交換を遂
 げました。饒氏は漢醫の進むべき
 道、更に漢方醫學の今後の發展は
 如何にすればよいか等の問題に就
 いて仲々熱心に其の抱負を語りま
 した。終つて「醫道興國」と揮毫し
 て戴き、記念寫眞を撮り、今後の
 確き親善を約して別れました。

終りに滿洲の漢醫に對する、日
 本の漢方醫の指導的立場が愈々確
 實性を増して來た今日、吾々青年
 醫學徒たる者も、益々奮起、新東
 亞の醫學史の輝しき一頁を建設す
 るため粉骨碎身する事を誓つて糊
 筆致す次第であります。

以上
 昭和十五年八月二十八日

(第八頁より)

一、婦人科疾患の治療

合葉 仁 先生

一、脊髄神經と鍼灸療法

清水 貞 顯先生

會 費 一金五圓也

同窓會員は金四圓

(組合としての團體申込

は特に御相談に應ず)

申込所 東京市向島區寺島

町一ノ一〇

醫道の日本社

振替口座東京一六三、

五四一番

申込期日 九月二十四日迄

會費御送金と同時に會員

證を送ります

皇 醫 胃 腸 藥

東亞醫學協會幹部

漢方各大家の合議研究製劑

である故原料の精選と處方の的確は
 絶對他の追従を許さない

本劑は一時押への
 局處的藥劑ではな
 く胃腸の活力を健
 康と同じ様に恢復
 させる特點がある
 あらゆる胃腸藥に
 も満足しない場合
 にこの皇醫胃腸藥
 は最後の良藥とし
 ておすゝめする。

45錠 50
 105錠 1.00
 375錠 3.00

社 會 式 株

品 製 所 究 研 會 協 學 醫 亞 東

日本醫事新報社の社説を検 討し滿洲國及中國の漢醫問 題に及ぶ (三)

矢數道明

その二三の對比的成績は、既に吾等の期待せる如き結果を得てゐる。漢方醫個人の治療成績の如きは今暫く論外に置くも、即ち前號に於て述べたる京城府に於ける傳染病院の東西兩醫學による治療の比較、又吾等の友人が今事變に出征して野戰病院に在りて、マラリアの治療に漢藥を用ひて新機軸を拓き、他の一人は陸軍病院に於て院長の了解の下に、特にマラリアの重症患者のみを二班に分ち、一は西洋醫學の治療に従ひ、一は漢方醫學の治療をなし、その臨牀的經過のみならず、血液、尿等をあらゆる精密なる科學的検査をなし比較したる結果、漢方の治療による成績は斷然優秀で、歴然と數字の上には現はれてくるので、院長を驚かし、たといふ報告に接してゐる。

五

新報は曰ふ、
「かたがた漢方醫學の學、術の價値如何、それに伴ふ漢方醫の處置如何が當面の問題となつてくるが畢竟するに漢方醫學といふものは治療醫學の上からも、豫防醫學の上からも、殆んど無價値なものであるまいか」と。
吾等はこの一條を讀むに及んでその無責任なる放言に憤然たらざるを得ない。社説子は漢方醫學の學と術とに對して、謙虛な學者的立場に立つて、果して之を研究し之を實驗したことがあるであらうか、若しも子が科學的良心の下に之を研め且つこれを實驗したならば、恐らくその良心の深遠に従つてその眞實なる努力の程度に應じて漢方醫學の學術の價値を認識し得る筈であり、若しこれなくして右の如き妄斷をなすに於ては、その非良心的、非科學的態度は、最も恥づべき輕率なることを反省せねばならない。

漢方醫學と西洋醫學とは各々その理論的立脚點、實踐的方法に相異性、特殊性があり、漢方には西洋醫學の如き唯物科學的、學として長體系を備へてはゐないが、漢方には漢方として独自の理論と技術とがあるのである。その實驗的證明はやがてこの二醫學が協力的の下に比較検討されることによつて解決されるときが來ることであらう。

六

新報は曰ふ、
「されば當面の課題は、かゝるものに何等の未練をもたず、まづ現代醫學の普及發達に努むべく、支那の現状は恰もわが明治初葉のそれにも比すべく、當時西洋醫學としては蘭方醫、英醫、獨醫を學んだ者囁の早の如くに寥々たる有様に拘はらず、明治政府が漢方醫學の絶滅を期し、その非常な反對運動をも斷乎排除して邁進し、今日の日本醫學建設の基を開いたと同じ方途を辿るのほかに、その方法もあるまいと思はれる」と。
明治政府が漢方醫學の絶滅を期して、その反對運動を斷乎排撃し、今日の如き跛行的日本醫學を造り上げたことを最も正しい處置であつたと社説子が心から信じ、同様手段を支那に強制することを主張するならば、子は餘りに時代と國情を觀察するに病的錯誤を起してはゐまいか。明治政府が爲し得た如く、支那に於て又滿洲に於て然かく容易に絶滅し得ると考へるならば、それは全く御目出度い純眞さである。

七

最後に新報は曰ふ。
「惟ふに今日、漢方醫學にあつては赤痢、チフスの豫防も外科手術もやれず、それは今日當面の問題には役に立たない。従て差當り現代醫學の普及發達を圖ると共に、漢方醫學の再教育の問題こそ、支那の醫藥界に於ける今日の緊要な課題であらう」と。
漢方醫學の概念と現代的使命に就ては本號別項に於て論ずるところがあつた。吾等は漢方醫學を幾世紀以前のまゝの姿に引戻せといふのではない、確立すべきものは現代的漢方醫學の内容であり、その思想を行ずるものとしての漢方醫學の素養の問題である。勿論吾等は現在の支那及滿洲の漢方醫學を以てそのまゝでよいといふものではない。現代の漢方醫學としてその素養を確立し、西洋醫學の精密なる分化的特徴を全人格的に活用することには誰れしも異議を唱へ

東亞醫學協會 講演集

第一輯

本講演集は拓大漢方講座五周年記念講演會に於ける講演を纏めて一冊としたもので、漢方と漢業掲載のものを別冊として新しく裝禎したのである。總頁五十三頁、内容は、

- 一、藜蘆驚甲散の運用に就て 矢數道明
- 一、和田東郭の研究 大塚敬節
- 一、日本醫學への道 渡邊武
- 一、傷寒金匱の藥物の再吟味 龍野一雄
- 一、古代印度醫學に於ける 龍野一雄
- 一、陰陽の概念規定に就て 矢數有道
- 一、瓜呂枳實湯の運用 木村長久
- 一、鍼灸治穴配合の構造 柳谷素靈
- 一、五行論に對する一考察 西澤生恵
- 一、人蔘の心下痞鞭論 清水藤太郎
- 一、副食物と腹候との關係に就て 小出壽

定價 一部 五拾錢也 送料共

申込所 東亞醫學協會宛

るものがあるまい。然し乍ら今直ちに漢醫に對して西洋醫學を強ひ木に竹を繼ぐ如き再教育は却て逆効果のみであることを注意せねばならない。されば一方に於て漢醫の素質を向上させ、漢方醫學の特徵を益々發揮せると同時に、他面に於て軍醫として、軍醫、防疫官等は希望を以て更に補充させるがよい。これ等は漢方醫學の本質的問題とは別箇に組織的に技術的に考慮する方が効果的であらう。

結 論

以上の所論中漢方醫學の名に於て日本の漢方醫學と支那の漢方醫學とを混同し、日本の漢方と支那の漢方とを同一なるかの如く述べた點もあるが、勿論この點は相當の差異を認めねばならない。吾等と雖も今日の支那漢方醫學の漢方醫學及漢醫を無條件で賞讃し、又はその現状維持を獎勵するものではないのである。たゞ一般論として述べた漢方醫學は、三國に共通する漢方醫學の理念であり、漢方醫學が内容的に包蔵するところの醫術の實際的價值である。

而して今やこの漢方の理念とその包蔵する内容、その實際的價值が歴史的法則の下に時代の勢力を以て必然的に取り上げられて来たといふことを認識せねばならないのである。然るときは日本の漢方醫學の地位、漢方醫學の使命、支那及滿洲に於ける漢方醫學及び漢醫に對するより優れたる具體策が生れてくるので、この度の日本醫事新報社の社説は全くこれ等の點に旨目的で一方的であるといふことを指摘し之を否定せねばならない。

將來の醫學は、漢方とか西洋とかを離れて、新しい國家醫學として統一せられねばならないであらう。東洋の新しい體制下に國立の東洋國家醫學研究所が設立せられ

ねばならない。そこに日本を主軸とし新しい東洋の醫學が生まれ、世界醫學の指導標が打建てられるであらう。

尙ほ本稿としては餘談であるが、形而下的防疫陣も必要であるが、同時に形而上的傳染病たる精神病、諸種の犯罪、思想的犯罪、一切國家總力戦を弱体化する心的恐怖や萎微等を一掃するに取上げられねばならない、細菌による傳染病がこれ等國家の總力に及ぼすマイナス的

力量よりも心的傳染病たる諸種の精神病、犯罪、思想的相剋、恐怖等のもたらすマイナス的の力量の方が遙かに多いからである。而してこれ等が總べて醫學と交渉を持つことは云ふまでもないことである。然しこのことは現在吾々の立場からは少しく行過ぎたものであらうが、舊來の唯物的傾向から轉廻すべき一つの問題として提示したものである。

さて當面の問題たる支那及滿洲に於ける漢醫の善導と漢方醫學の本質的發展を期するため早急に東洋醫學研究所が建てられねばならぬ。その組織内容に關しては城大の杉原教授の私案があつて、その大體の形式は完備してゐて、賛意を表するところである。その骨子を紹介すると研究は臨牀的研究と基礎的研究に分けられ、臨牀的研究は假稱漢方病院を設立して、内科的の方面の治療を主とし、外科眼科耳鼻喉科等は單に附屬せしむる。又鍼灸醫學の研究をもその一部に採用する。基礎的の方面の研究は、漢藥研究機關の設備と文獻の整理研究の二つに分けられ、漢藥研究は藥理學方面と化學的方面と植物學的の方面の三方面より研究されるべきであるといふ。

研究所の人的構成は現代醫學を修めて漢方醫術を知るものを中心とし、醫學校卒業後二三年内科學を修め、漢方醫學の概念漢藥の豫

備知識を養つたものをして漢方醫術の臨牀を修業せしめ、顧問として純漢方醫も採用してその術の研究をするといふのである。斯くして研究琢磨された新しい漢方醫にして初めて支那及滿洲の漢方醫學

拓殖大學第一回漢方夏期大學の盛況

漢洋兩醫學を比較検討し、漢方醫學の特殊性格を闡明ならしむといふ趣旨の下に開かれた拓殖大學漢方醫學講座第一回夏期講習會は發表後僅かに一ヶ月間の事として頗るその成果を案じてゐたが、當日

蓋を開けてみると五十一名の會員が押しよせて、受付のため講義が一時間近くも遅れて終つた。先づ矢數有道講師の漢方醫學の診斷學と治療學の特異性に始まり、大塚、龍野、矢數道明、清水、柳谷の諸講師熱意を以て名講義の讚嘆を受けて一同氣をよくした。加ふるにこの講習會は廣くそれ、の専門的該博なる研究發表を諸大家にお願いしたことが人氣を呼び、谷中安立院に於ける安西安周先生の

淺田宗伯、今村了庵、淺井國幹を語る熱辯に感泣するもの、小田壽先生の眞摯な日本食義道の淳々たる御講義に、自覺するもの、木村良素先生は、先頃來漢方と漢藥誌上に於ける旋風の歡迎を受けた得意の肋膜炎の治験に關して創意的小青龙湯の應用目標及その治験例を語られ有益であつた。小石川植物園の見學も非常に爲めになつたと喜ばれ、津村藥草園はたとへ雨が降つても構はないとの熱心振りで、園内に於ける渡邊武先生の獨學者的眞摯な貴重な講演と、上原禎子氏の工夫になる代用食の料理は、一同空腹を耐へての上の御馳走とてヤンヤの拍彩を受けた。栗原廣三先生は豫定日が雨で植

を指導し、漢醫の再教育に當ることが出来るのである。この意味に於て現代醫學を修めて漢方醫學の實際に當つてゐる日本の漢方醫家の使命が重大なる關心を拂はれねばならぬものである。(完)

物園の見學が延期となり。後の日は日鮮滿農協會の大會の爲め御出でを願へなくなつた。東京醫學



寫眞上は 夏季大學 漢方講習會の小石川植物園見學一行

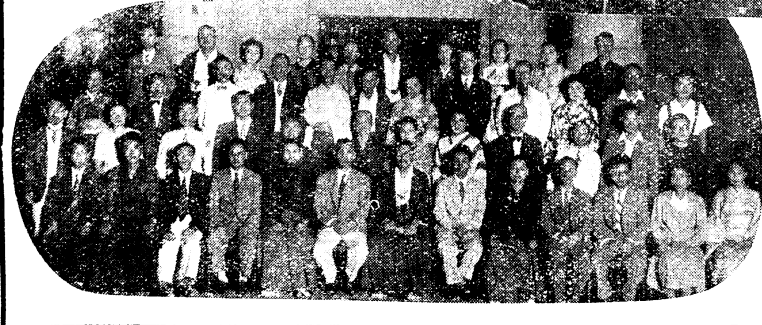
下は 同終了式記念撮影

専門學校で病理や解剖の標本を矢數道明氏の學友木村秀雄博士に御説明願ひ新醫學の一斷片を見學した。木村長久先生の御宅を見學し

國寶の神農廟に詣で、先生から懇篤なる御説明を受け、豪莊なる御宅の藥室診察室を見學し、調劑の實際について御説明を受け、古書の間覽とその勉學法についてお話しがあつた。傳統と由緒のある先生のお宅に何ふと心から漢方の香氣が漂ふて氣持がよい。この講習會中、陰に陽に總べての協會として深甚なる感謝の意を表する次第である。

夏期大學入會者

- (申込順)
- 狩野 佳子氏 深堀 賢治氏
- 川喜田光子氏 熊野 可一氏
- 高島 莊志氏 中島 久氏
- 藤澤子之藏氏 藤代 蕃山氏



- 大河内義之氏 高橋 信氏
- 佐藤 操氏 淺野 泰司氏
- 笹沼 行男氏 鹽月 精平氏
- 田先滿壽男氏 中内 善馬氏
- 池田 三藏氏 板倉 てる氏
- 河野 伯道氏 加藤 乘鳳氏
- 霜田 一衛氏 安達捨次郎氏
- 長尾 景親氏 櫻庭 富作氏
- 生澤 實氏 海老名龍雄氏
- 山田 賢氏 神長新太郎氏
- 中村 策治氏 兒島 龍郎氏
- 中原富一郎氏 鶴田 弘毅氏
- 渡部 靜氏 藤井治郎作氏
- 家本 良子氏 川村 卓丈氏
- 大祐 徳道氏 高柳 米壽氏
- 森 美奈子氏 相川 才三氏
- 高橋 庄三氏 武井 嘉藤氏
- 山本平一郎氏 鹽澤 賢氏
- 沖野興三郎氏 横田 政恵氏
- 金平ステエ氏 新田 秀氏
- 人來 重則氏 清水不二夫氏
- 平野 光風氏 以上五十一名

本誌代納入者芳名

- 金二圓四十錢也 吳 秀 清殿
- (臺灣)
- 金二圓四十錢也 穎原 基殿
- (北支)
- 金一圓二十錢也 山崎 廣熊殿
- (廣島) 新田 順久殿
- (品川區) 熊野 可一殿
- (世田谷區) 阿久津瀨七殿
- (中華民國) 後藤 泰男殿
- (赤坂區) 深堀 賢治殿
- (朝鮮) 躰一 醫院殿
- (大阪) 宮腰仙太郎殿
- 本協會寄附者芳名
- 一金拾圓也 (豐島區) 友安 鎮子殿
- 東亞醫學協會々旗寄附者芳名
- 金壹圓也 (拓大第二回) 西澤 生恵殿
- 金五十錢也 (拓大第三回) 板倉 てる殿

東亞醫學協會 九月例會

時 日 九月二十一日(土曜日)午後六時より

場 所 小石川、茗荷谷、拓殖大學講堂

講 師 陸軍藥劑官 中 島 寅 男氏

演 題 マラリア治療に於ける

漢洋比較研究と紫圓の應用

會 費 三十 錢

中島氏は事變前まで、赤坂福吉町で、漢方専門の薬局を開設してゐたが、事變勃發直後、藥劑官として應召、前後四ヶ年にわたつて、多忙なる仕事の餘暇に彼の地の名醫を訪ね、或は藥物を研究し、特に紫圓を廣く應用して、漢藥の偉效を實地に示し、マラリアに洋藥と漢藥を別個に用ひて、赤沈反應その他の操作によつて、科學研究を試み、頗る興味ある成績を收め、之れが論文は近く、軍部の雜誌に掲載される筈である。猶ほ當日は中島氏が彼地に於て蒐集した書籍、藥物等も展覽に供する豫定である。奮つて御出席下さる。

日本鍼灸醫道講習會

主 催 醫道の日本社

會 期 九月廿五日より九月廿九日迄

會 場 東京醫師會館

講師並に講義科目

一、私の臨牀治驗 井上 惠理先生

一、陰陽五行學の源泉 西澤 生惠先生

一、補瀉迎隨論 岡部 素道先生

一、鍼灸に必要な腹診に就て 小椋 章道先生

一、日本に於ける漢方醫術並に鍼灸術の消長 竹山 晋民先生

一、刺戟と鍼灸に就いて 内山 孝一先生

一、經絡存在の論理と實際 柳谷 素靈先生

一、慢性病の二、三治驗に就て附經穴の實驗過程 駒井 一雄先生

一、ラヂオのお灸の話に就いて 田中 恭平先生

一、鍼灸術に活用できる脈診論 安西 安周先生

(以下第五頁)

總頁堂々七百六十餘頁

昭和十五年度

拓大漢方醫學講座教材頒分

一、傷寒論金匱要略要方解説(一三六頁) 大塚 敬 節

二、漢方治療各論(一〇五頁) 木村 長 久

内科一般、外科、肛門病

三、後世要方解説(三十七頁) 矢 數 道 明

四、漢方治療各論(八十七頁) 矢 數 道 明

産科、婦人科、小兒科、皮膚、耳鼻咽喉、齒科、眼科

五、漢方醫學總論(八十六頁) 矢 數 有 道

六、漢方藥物學講義(七十三頁) 清 水 藤 太 郎

七、漢方醫史學講義(九十四頁) 龍 野 一 雄

八、鍼灸兪穴學治療學講義(一三三頁) 柳 谷 素 靈

九、經驗藥方分量集(十一頁)

全揃金拾貳圓也爲替又は振替にて前金拂込の方には送料當方負擔、朝鮮、滿洲、中國は五拾錢増加。

東京市牛込區新小川町二ノ七(溫知堂内)

申込所 東亞醫學協會 電話牛込(34)二七七二番 振替東京二一九四三〇番

滿洲國民生部技佐 豊田有康氏來朝

滿洲國民生部保健司醫務科技佐醫師豊田有康氏は九月三日、官令を帯びて來朝したので、東亞醫學協會理事清水藤太郎、矢數道明、矢數有道、龍野一雄、大塚敬節の諸氏は、五日夜長生殿に於て、之が歡迎會を開いた。

相澤一雄氏逝く

本協會出版部委員、藥劑師相澤一雄氏は去る九月一日午前二時、豊島區池袋町二丁目一六二の自宅で急逝せられた。行年三十二歳氏は夙に漢方醫學の研究に興味を持ち拓大の漢方講座を修了せられ、頭腦頗る明晰にして、前途を矚目せられてゐた。まことに愛惜に堪えない。

編輯後記

○本誌へ初めて御寄稿下さつた。井上惠理氏は柳谷門下の逸材、倉島宗二氏は代田門下の高足、共に將來への飛躍が期待されてゐる。○別項廣告の如く本月の例會は中島陸軍藥劑官を煩して、新歸朝のお土産話を聞くこととなつた。同志を御誘ひ合せの上御來會下さい。